

四国横断自動車道
吉野川渡河部の環境保全に関する検討会
第一回検討会

【吉野川河口域の水辺環境と希少生物】

西日本高速道路株式会社

四 国 支 社

平成25年8月22日

みち、ひと…未来へ。



■ 吉野川の概要 ～吉野川について～

吉野川は、四国中央部を四国山地に沿って東に流れ、その流域は、幹川流路延長が194 km、流域面積は3750km²で、四国全体の約20%にあたる広さを占める四国第一の河川です。また、第十堰地点で旧吉野川と分派して紀伊水道に注いでいます。



参考: 徳島河川国道事務所HP



■ 吉野川の概要 ～河口周辺の概要～



吉野川の河口周辺は広大な干潟が広がり、上流側14.5kmにある第十堰までの間は淡水と海水が混ざり合う汽水域となっています。

この区間には、徳島県が絶滅危惧種Ⅰ類に指定するシオマネキ(カニ)をはじめとした、数多くの絶滅危惧種が生息・生育しています。さらに、渡り鳥であるシギ・チドリ類も数多く飛来する貴重な空間となっています。



渡り鳥であるシギ・チドリ類が数多く飛来することから、「東アジア・オーストラリア地域・チドリ類重要生息地ネットワーク」の参加地となっています。

■ 吉野川河口周辺に生息・生育する希少生物



吉野川河口周辺の護岸付近では、たくさんのシオマネキの活動が見られ、干潟の近傍でも様々な希少種の生息・生育が確認されています。

なお、干潟のヨシ原付近ではシギ・チドリ類のねぐらとなっており、カニなどの底生生物の活動が活発になる干潮の前後に、採餌行動が確認されます。

項目	調査年度	確認種	希少種	徳島県レッドリスト (絶滅危惧種)	希少種の例
鳥類	平成15年度～平成23年度	108種	28種	22種	ホウロクシギ、シロチドリ、コアジサシ、ミサゴ、ハヤブサなど
底生動物	平成15年度～平成23年度	467種	78種	24種	シオマネキ、マメコブシガニ、ヘイケガニ、ノキリガザミなど
魚類	平成16年度～平成22年度	86種	18種	9種	イトハゼ、トビハゼ、タビラクチ、シロウオ、チクセンハゼなど
昆虫	平成15年度～平成23年度	1,345種	6種	3種	ルイスハンミョウ、オオアオミスギワゴミムシ、ウミホソチビゴミムシなど
植物	平成15年度～平成23年度	311種	6種	6種	ウラギク、イセウキヤガラ、ハマホウなど

※上記は阿波しらさぎ大橋建設事業において、平成15年度～平成23年度に実施した環境モニタリング調査で得られた結果である。

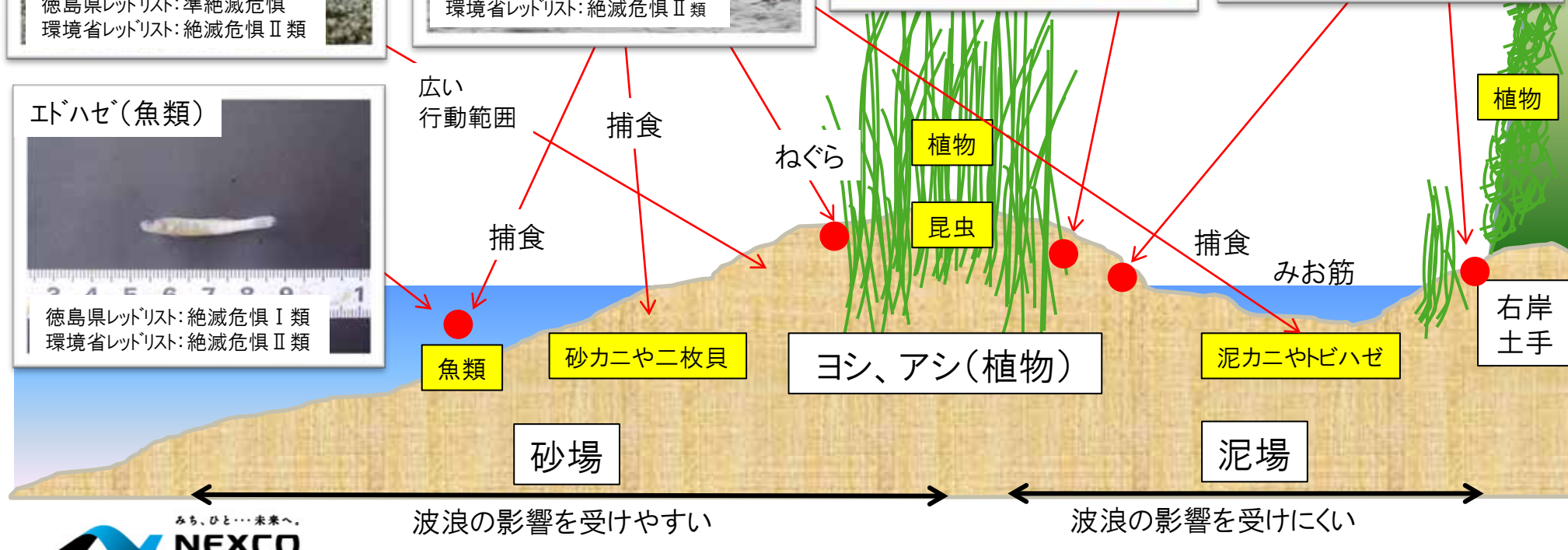
※調査範囲は、河口干潟～住吉干潟の河川域において実施された結果を示している。

※確認種、希少種は実施した調査の累計を示している。

※希少種は、環境省レッドリスト、徳島県レッドリスト、WWF等によって希少性の高い生物として指定された種数を示している。

吉野川河口周辺に生息・生育する希少生物の例

吉野川の河口周辺は、波浪の影響を受けやすい場で砂が、波浪が進入しない閉鎖性の高い場で泥が堆積しており、多種多様な環境が構成されています。その特性の中で、数多くの生物が生息・生育し、希少な生物も豊富に見つかっています。



■ 吉野川河口周辺の環境保全について

豊かな自然を備えた水辺空間や多種多様な生息・生育する自然環境が多く残されており、地域のシンボルとして親しまれています。今後、豊かな河川環境を後世に継承するよう保全していくことが重要と考えます。



※写真は、住吉干潟より吉野川河口方面をのぞむ